

2. 日本の一般住民における欧州 SCORE リスクチャートの有用性

研究協力者 澤野 充明（慶應義塾大学医学部循環器内科 助教）
研究協力者 香坂 俊（慶應義塾大学医学部循環器内科 特任講師）
研究分担者 岡村 智教（慶應義塾大学医学部衛生学公衆衛生学 教授）
研究協力者 猪原 拓（慶應義塾大学医学部循環器内科 助教）
研究協力者 杉山 大典（慶應義塾大学医学部衛生学公衆衛生学 講師）
研究協力者 白石 泰之（慶應義塾大学医学部循環器内科 助教）
研究協力者 渡邊 至（国立循環器病研究センター予防健診部 医長）
研究分担者 中村 保幸（龍谷大学農学部食品栄養学科 教授）
研究協力者 東山 綾（国立循環器病研究センター予防医学・疫学情報部 室長）
研究分担者 門田 文（滋賀医科大学アジア疫学研究センター 特任准教授）
研究分担者 奥田奈賀子（人間総合科学大学人間科学部健康栄養学科 教授）
研究分担者 村上 義孝（東邦大学医学部社会医学講座医療統計学分野 教授）
研究分担者 大久保孝義（帝京大学医学部衛生学公衆衛生学講座 教授）
研究代表者 三浦 克之（滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 教授）
研究分担者 岡山 明（生活習慣病予防研究センター 代表）
研究分担者 上島 弘嗣（滋賀医科大学アジア疫学研究センター 特任教授）
NIPPON DATA80 研究グループ

【背景・目的】

欧州では欧州循環器学会によって開発された SCORE リスクチャートが長期的な心血管疾患（CVD）死亡リスク評価に使用されている。しかし、他の人種においてこのリスクチャートが使用可能かどうかは定かではない。今回、我々は日本人一般住民における SCORE リスクチャートの予測能を検証した。

【方法】

NIPPON DATA80 コホートの日本人一般住民を対象として検証した。欧州 SCORE リスクチャート（低リスク国版）によって10年間の予測心血管死亡率を男女別に求めた。モデルの検証方法として、discrimination の検証には Harrel の c 統計量を calibration の検証には、Grønnesby and Borgan goodness-of-fit テストを使用した。

【結果】

年齢 40～64 歳の男女、計 4842 名、47,606 人年について検証した。10 年間の観察期間中に 203 名が心血管死亡した。欧州 SCORE リスクチャート（低リスク国版）は男女とも合わせた対象人口では c 統計量が 0.72, 95% CI 0.71–0.73 であり比較的良好な discrimination を示したものの、calibration は R², 0.67, Chi-square value 6.15, p = 0.01 であり、不良であった。男女別に見た場合、discrimination は男性で c 統計量 0.71, 95% CI 0.69–0.73、女性では c 統計量 0.71, 95% CI 0.70–0.73 でありともに良好であった。しかし、calibration は男性で R², 0.22, Chi-square value 0.749, p = 0.38 と不良であった一方、女性では R², 0.96, Chi-square value 1.39, p = 0.24 と良好であった。

【結論】

日本人一般住民における欧州 SCORE リスクチャート（低リスク国版）の予測能は女性では良好ではあるものの、全体では一律したリスクの過大評価傾向にあることがわかった。

Atherosclerosis. 2016;252:116-21.